

I

1. 同じ場所にいる相手ではなく世界中の遠く離れたところにいる人々に対して、インターネット、eメールを用いてメッセージを伝えることに関する文章である。下線部の訳は全体的によくできていた。単語の訳で誤りが目立ったのは“keystrokes”である。構文の把握は比較的容易であるが、二つ目の文における三つの部分、“With just a few keystrokes”、“we can create a message”、“that can ... the world”のつながりを誤読した解答がいくつかあった。
2. 本問は、強調構文 (not only A but also B)、by で始まる前置詞句 (手段を表す副詞句) を含む英文の構造把握に加え、指示詞の照応関係、時制 (現在完了形を過去から現在に至る継続的意味として適切に訳出できるか)、および主要語彙 (provide / strength / beauty / stillness / pleasure to the eye) を文脈に即して正確に解釈できるかを測ることを目的とする。また、単語の逐語訳にとどまらず、文全体の修飾関係や意味のまとまりを踏まえた和訳力を問うものである。文構造を十分に把握しないまま語義から推測的に処理した解答や、by 句の並列構造を適切に捉えていないもの、語形の確認が不十分なために誤読が生じているもの(特に calm を claim、pleasure を pressure と誤読)などが見られた。さらに、前半と後半で主語の対応関係を正確に追えていないために、訳文において主体が入れ替わり、述語の関係が不適切になっている例も散見された。

II

日本語の文章の意味を適切に把握しているか、標準的な英語の文法を用いて訳されているか、適切な語彙を用いた自然な英語になっているか、英文の句読法やスペリングが正しいかが主たるポイントである。解答の際には、文章全体で書かれていることは何かを理解し、下線部が全体とどのような関係にあるかを考えた上で、英語で表現するとよい。

下線部は、文脈を理解した上で、自然な英語に訳出されているかどうか重要である。「不適切なことばづかいを不用意にしまう」「ほとんど回避できる」という表現など、多くの解答に英語表現の苦心・工夫の跡がみられた。一方で、基本的な語彙でのスペリングのミス (動詞の変化を含む)、自動詞と他動詞の混乱、品詞 (特に形容詞と副詞) の混乱や、文内の副詞の位置が不適切なもの、前置詞の誤りなどが散見された。

III

1. 公平さに対する子どもの期待を実生活では実現しないと否定した上で、大人であっても人生のルールブックが欲しい時もあるがと付言した文章である。接続詞 (though と but の違い)、関係詞、現在完了、仮定法など基本的だが幅広い知識が求められる。ダッシュの存在を無視して前後を入れ替えた訳が非常に多かった。意味が通る限り可としたが、厳密には冒頭文の this が前段の内容であることを明記するべきである。語彙の上では definitively に関する誤答が多く見られた。
2. 下線部に続く文章で述べられていることの内容を把握し、本文に即して日本語で分かりやすく具体的に説明することを求める問題である。“Sally’s reasonable concerns”を解消するために必要なことを、親に求められる“response”に重点を置いて説明できているかどうかのポイントである。主語の間違いや、主語述語の対応の混乱が散見された。“how she hoped it would turn out”を正確に解釈できていない答案が多く見られた。
3. 親が自分の子どもたちに公平であろうとして、分け隔てなく同じように接することは、「必ずしも望ましくない」 (“not necessarily desirable”) と筆者が考える理由を問う問題である。下線部 (3) の次の文からこの段落の終わりまでに、その理由が述べられている。単語の意味を誤解したために、的確な解答になっていないケースが多々、見られた。たとえば、“strengths and weaknesses”を「長所や短所 (強みや弱み)」ではなく、(力の)「強さや弱さ」と誤解している解答や、“the next”については同じ家庭内の別の子どもではなく「隣の家の子ども」と訳したり、「次には」と別の機会の意に解している解答があった。“call for”の意を正しく捉えられていない解答もみられた。下線部の“even if it were”や“desirable”の意が正しく押さえられていないために、「不可能」である理由が述べられている解答もあった。
4. 子どものあいだの不公平感を解消するために、一人一人の子どもと特別な外出をすることがよいとする部分を訳出する問題である。コロンで区切られている二文は、コロンの後の文がその前の文を具体的に説明するものとなっており、そのまま訳せばよい。全体的に文法・語彙ともに特に高度なものはなかったが、文の構造を正しく理解していないことがわかる解答が散見された。特に多かった誤りは、“they”が指しているものを「彼ら」または「子どもたち」としたものである。代名詞は既出の名詞を言い換えるという基本をしっかり理解していれば、“they”が指すものが“the meals”を指すことはすぐにわかったはずである。